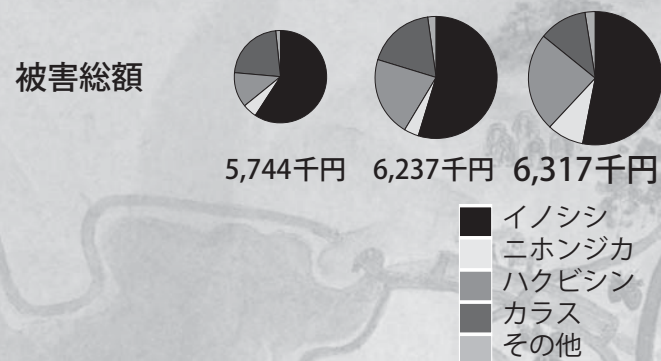
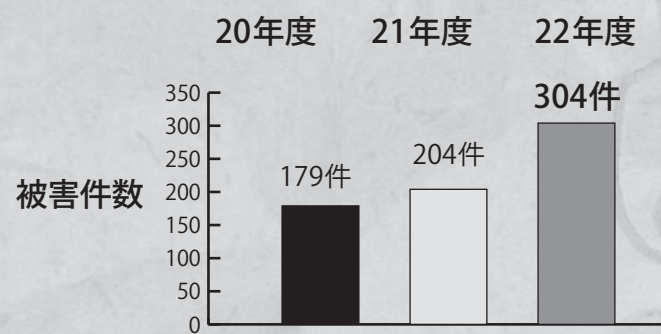




被害傾向

市内では山間部だけでなく、山間部に隣接する地域全域でも被害が発生しています。

イノシシ：タケノコやスイカ、イモ、コメなど1年中被害が発生しています。被害は農作物だけでなく、土手崩しによる土砂災害への危険も懸念されます。また住宅地まで出没し、人的被害への不安も心配されます。

ニホンジカ：平成21年頃から被害が顕著となり、狩野川では群れでの出没が日常化していることから、相当数が生息していると推測できます。

畑は最高のレストラン。人間がおれたちのために食物を作ってくれるから、一年中食べ放題だよ、ありがとよ。

市内では、野生鳥獣が農地に出没し、野菜や果物を食べてしまったり、田畑を荒らす被害が年々増加しています。

被害をもたらす野生鳥獣は主にイノシシ、ニホンジカ、ハクビシンなど。その内、イノシシによる被害が全体の5割以上を占めており、農作物への食害以外に



鳥獣被害の現状

田畑の水路敷、地面の掘り起こしなども深刻な問題となっています。

また近年、かわいらしいニホンジカの姿を狩野川河川敷で見かけたことのある人も多いと思いますが、ニホンジカによる果樹や水稲、野菜類への食害は年々拡大しています。

いったい誰のために農作物を育てているのかわからない

大川一郎さん
農家(小坂)



小坂地区でミカン畑など70～80アールの農地を所有する大川さん。鳥獣による被害は年々深刻になってきているそうです。

「ここ4～5年前から急激にイノシシやシカの被害が増えた。農地のほとんどは壊滅状態。春はタケノコ、夏はカボチャなどの野菜、秋はクリやシイタケ、冬はミカンなど1年を通じてやられているよ。育てても収穫時期になると食べられてしまう。これではイノシシのために作っているみたい。作ってもエサになるだけならやる気もなくなるよ。農業をやめなくなっちゃうね」



被害は農作物だけでなくミカン畑(段々畑)の土手も被害に。

特集

STOP THE 鳥獣被害

～野生鳥獣から大切な生活環境を守るため～

野生鳥獣による被害は、農作物はもちろんのこと、私たちの生活環境へも広がっており、それは伊豆の国市でも例外ではありません。

野生鳥獣が人間の生活に、不快で危険な影響を及ぼすのはどうしてでしょうか。そして、野生鳥獣の被害から大切な農作物や生活環境を守るためにはどうしたらよいのでしょうか。

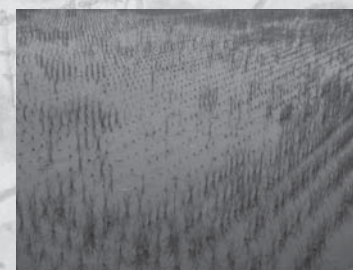
問合せ 農業振興課 ☎ 055-949-6813



イノシシによるスイカ被害



イノシシによる土手の掘り起こし被害



ニホンジカによる稲被害



ハクビシンによるミニトマト被害

これだけひどいと、農業をやめなくなっちゃうね

サツマイモにスイカ、カボチャ、クリもみんなイノシシに食べられてしまった

車を走行中、シカが飛び出してきた



大川一郎さん
農家(小坂)

イノシシが家の庭を掘り起こしてしまった

タケノコをイノシシに掘られて食べられない



猟友会葦山分会の皆さん

鳥獣対策の心強い味方が猟友会です。猟友会とは狩猟者（狩猟免許を持つて狩猟をしている人たち）の公益法人です。市内には、大仁分会・葦山分会・伊豆長岡分会の3分会があり、現在、会員は70人。主に県や市、被害を受けている農家などの依頼を受け、生態系や農作物などに被害を及ぼす有害鳥獣の捕獲を行っています。

鳥獣と戦う男たち 猟友会

■インタビュー 猟師の思い

猟友会葦山分会 半田重義さん（多田）



猟師歴：約50年
主にわなによる狩猟

猟で一番気をつけることは、人間に危害を加えないこと。対象は鳥獣だからね。わなを仕掛けるときは人間の目に見えるように、必ず表示をしている。わなはそれほど恐ろしいものではないので、皆さんも猟師の活動を理解してほしい。被害農家から依頼を受けたのをきっかけに狩猟を始めた。捕獲したとき、農家から感謝されるのはやっぱりうれしいよ。

猟友会葦山分会 鈴木登喜夫さん（南條）

狩猟は、危険がいっぱい。だから自身の健康と安全な狩猟を常に心がけている。人間が山にヒノキやスギを植えたことで、鳥獣のエサとなる下草が生えなくなった。里山にも荒れた田畑が増えていく。鳥獣が増えたのは人間が原因。農家も自分で畑を守る気持ちでしっかり管理してほしい。わなを仕掛けてかかった時は、鳥獣との知恵比べに勝った気がしてうれしいね。

猟友会葦山分会 柴田清和さん（高原）



猟師歴：約40年
主に猟銃による狩猟

とにかく猟銃の先には細心の注意を払う。間違いがあっては困るからね。私たちが捕獲を行うのはあくまでも自然の生態系を守るため。最近は鳥獣が人を恐れず、平気で里山まで下りてくるようになってきた。今では常に農作物を狙ってくるので、一年を通して活動しているよ。猟師は決して怖い存在ではないので、気軽に声をかけてほしい。



わな設置の案内表示



猟師歴：約30年
わなや猟銃による狩猟

鳥獣が増えたのは人間が原因

捕獲するのは生態系を守るため



勘違いしてもらっちゃ困るぜ、おれたちだって生きていくには必死なんだ。



タケノコを探すイノシシの目線（イメージ）



イノシシ Inoshishi

- ・昼夜を問わずエサを求めて活動します。雑食性で人間が食べるようなものはすべて食べます。
- ・落葉広葉樹林や茂み、耕作放棄地など食料になるものが豊富にあり、身を潜められる場所を好みます。
- ・大きな鼻は優れた嗅覚を持つだけでなく、70kgの石も簡単に動かします。
- ・記憶力がよく高い学習能力を持つ一方で、警戒心が強く臆病です。
- ・年1回4～5頭を出産します。



ハクビシン Hakubishin

- ・夜行性で昼間は暗い巣穴などを利用し、夜になると里山や人家周辺に出没します。
- ・人家の屋根裏や倉庫、農作業小屋などにねぐらをつくることもあります。
- ・果実中心の雑食性で、ほかに昆虫類、ミミズ、ネズミなどを食べます。
- ・木登りが上手く、バランス感覚が発達しています。
- ・エサ場の近くにねぐらをつくります。
- ・年間を通して出産し、1回に1～4頭を出産します。



鳥獣の生態と特徴

被害対策の第一歩は、まず鳥獣について知ることです。鳥獣の生態と特徴を正確に知り、鳥獣の生活痕跡を見逃さないことが被害防止につながります。市内で深刻な被害を及ぼすのはイノシシ、ニホンジカ、ハクビシン。ほかにも、カラスなどの鳥類による被害も発生していますが、ここでは代表的な3種類について紹介します。



ニホンジカ Nihonjika

- ・昼夜を問わず行動します。昼間主に森林の中にいて、夜間に農耕地や草地などに出る傾向があります。
- ・アセビなど特定のものを除いて、ほとんどの植物を食べる草食動物です。
- ・生活パターンは、2～3時間エサを食べ、2～4時間ほど休む、これを一日繰り返します。
- ・1.6 m以上の高さを楽々と跳び超えるほどのジャンプ力を持ちます。
- ・年に1回1頭を出産します。



鳥獣被害に強い環境作り

自分たちの大切な地域を鳥獣被害から守るためには、地域全体で被害対策に取り組むことが大切です。ここでは鳥獣被害にあわないための具体的な方法を紹介します。

〇刈り払いで『隠れ場所』をなくす

管理されていない放棄地は絶好の隠れ場所。見通しのよい『緩衝帯』を作って鳥獣の侵入を防ぎましょう。景観を保つことにもつながり一石二鳥の方法です。



〇知らずに行っている餌付けをやめる

バーベキューの残飯や節分の豆、お墓参りのお供え物などは、鳥獣にとつて最高のごちそう。皆さんが何気なく食物を屋外に放置する行為は、鳥獣への餌付けと同じです。一度味をしめた鳥獣は、同じ時期にその場所に『エサ』を求め何度もやってきます。

〇『秋の草刈り』をやめる

冬は鳥獣のエサが少ない季節。秋に草刈りを行うと、冬にはシカなどの好物である『柔らかい草(新芽)』が茂ります。秋の草刈りをひと休みし、草が自然と冬枯れすることでエサとなる青草がなくなります。

市の対策

増え続ける鳥獣被害を防止するため、市では次の対策を講じています。

『伊豆の国市鳥獣被害防止対策協議会』

関係する団体が一丸となって被害防止に取り組むため、市と伊豆の国農業協同組合、市内3猟友会が中心となって鳥獣被害防止対策協議会を設立しました。

『補助制度』

▽電気柵設置等の事業費補助

- ・市内農林業者
- ・補助率2分の1
- ・上限10万円



▽わな猟免許予備講習会テキスト代補助

- ・市民
- ・静岡県猟友会主催の予備講習会出席者

▽捕獲わなの購入費等の補助

- ・市内わな猟免許取得者
- ・補助率2分の1
- ・上限5万円

『被害対策研修会・出前講座』

▽専門家を講師に招き、基本的な防除対策について勉強する研修会の開催

▽希望地域に出向き基本的な防除

柵を設置したからといって油断してはだめ



西島行男さん
農家(浮橋)

最初は1mほどのトタンを設置したが、簡単に跳び越えられてしまった。今は電気柵で困い被害を抑えることができています。

しかし、柵を設置したからといって油断してはだめ。しっかりした管理はもちろんだが、大事なのは鳥獣の習性を理解し、それ相応の対応をすること。

良い農産物を収穫するためには手をこまねいているだけでなく、自分で積極的に行動していかなくては。

トタンを跳び越えたイノシシは痛みも恐れず突進。電気柵を突き破り畑の中へ。急に止まることができないイノシシの習性を理解し、電気柵はトタンなどから少し離して設置するべき。



電気柵

対策について一緒に勉強する出前講座の開催

『有害鳥獣捕獲』

▽市内3猟友会協力の下、害を及ぼす鳥獣を猟銃やわなで捕獲し、個体数を減らします。



被害防止三カ条

壺、油断しない

『私の家は山から離れているから大丈夫』
本当でしょうか。もはや鳥獣被害は山の近くだけに限りません。他人事と油断せず、自分の身の回りを見直してみしましょう。

式、餌付けしない

鳥獣はエサがあるから人家に近寄ります。田畑に収穫しない農作物を放置したり、知らずに行っている餌付け行為に気をつけましょう。

参、あきらめない

鳥獣にとつて『人間は怖い存在』。だから、二度と近づきたくないと思わせることが大切です。強い信念を持ち、あきらめないで対応しましょう。

野生鳥獣との『共存』

『人間』と『野生鳥獣』。はたして共存共栄は可能なのでしょうか。私たちが歩むべき道は、野生鳥獣の存在を尊重し、お互いの生活圏を守る『列存』こそが本来の『共存』の道ではないでしょうか。

特集おわり

野生鳥獣被害対策研修会の開催

～大切な農作物を鳥獣のエサにしないための勉強会～

女性や家庭菜園が趣味の人、大歓迎です

- ▶と き 3月2日(金) 10:00～15:00
- ▶ところ 浮橋地区
- ▶内 容 効果の高い防護柵の設置(現地での研修です)
- ▶講 師 (独)近畿中国四国農業研究センター
鳥獣害研究チーム 専門員 井上雅央氏
- ▶申込み 農業振興課まで電話で申し込んでください。
☎ 055-949-6813

うわあ、こんなきれいに整備されたら入りにくいだろう

人間はやつぱり怖いよ、おれたちは安全な山に帰るよ